

社協だより

平成31年2月1日

第182号

編集

社会福祉法人

江南市社会福祉協議会

江南市古知野町宮裏121番地

(老人福祉センター内)

TEL・FAX(0587)55-5262

『やさしい日本語』って知ってる？



1. 土足厳禁です。

2. 靴を脱いでください。

おもな内容

- 「やさしい日本語」って知ってる? 2ページ
- ちいきのふくしみつけた★
江南市国際交流協会「日本語教室」... 3ページ
- ボランティア×ボランティア
「ボランティアの先輩に聞く!の巻」... 4、5ページ
- わが町の生活支援コーディネーターが行く
(第2回健康ナビタウンの会編)..... 6ページ
- 社協掲示板 7、8ページ
- 福祉クイズ、寄付お礼 8ページ

東日本大震災が発生してからもうすべ8年が経つとしています。被災地には当時約3万人の外国籍の住民が暮らしていましたが、ある程度日本語で「コミュニケーション」といった災害時に使われる用語を理解することは難しく、津波から逃げ遅れてしまった人もいました。

このことから、日本語が不得手な外国人にも情報が伝わるようにとの認識が広まり、「やさしい日本語」の存在が見直され、各地でその普及に取り組みられています。

今号では地域共生社会が重要視される今、障がいを持つ方や子どもなどにも分かりやすく伝えるための手段の一つである「やさしい日本語」について、その活用方法も含めて2ページにて紹介します。ぜひご覧ください。

「やさしい日本語」とは？

普段使われている言葉を外国人にもわかるようにした、簡単な日本語のことです。災害発生時にできるだけ早く正しい情報を得られ、適切な行動をとれるように考え出されました。

江南市に住む外国人は、平成27年は1,495人、平成28年は1,534人、平成29年は1,622人（※）と、増えています。江南市民100人あたり1～2人の割合です。

地域共生社会が重要視される今、災害時はもちろん普段から役立つ「やさしい日本語」についてご紹介いたします。

※住民基本台帳参照。いずれも4月1日現在の情報です。

ポイント

- 敬語は使わない(ですますを使う)
- 伝えたいことを前に持ってくる
- はっきり最後まで言う
- 一文を短くする ・ ゆっくり話す

おべんとうって何かしら？

お知らせ
だって



保護者のみなさま
2月1日は給食がないので、
お弁当を持ってきて
ください。
〇〇小学校



書類にルビが振ってあることで、読み方が分かっていても、その単語の意味を伝える必要があります。

イカ？



お茶は
いかがですか？



丁寧さは大事ですが、敬語を使うことで相手に伝わらなければ意味がありません。

英語は世界共通言語と言うけど…

外国人という英語を話すと思いがちですが、英語が通じない国もあります。また日本語を勉強してから、日本に来る人も多いため、多国籍の人が集まると外国人の中でも日本語で会話をする人が多いそうです。

何が「やさしい」のかは、相手によって違います。例えば中国から来た人にはひらがなより漢字の方が、アメリカから来た人にはローマ字の方が伝わるかもしれません。

また「やさしい日本語」は、外国人はもちろん小さな子どもや高齢者、障がいをもった人など、いろいろな人にも配慮したコミュニケーション方法の一つです。難しい言葉を簡単な言葉に言い換えるだけでなく、絵や写真を使ったり、ゆっくり大きな声で話したり、文字を大きくしたりと、いろいろな工夫の仕方があります。

大切なのは、どうやったら伝わるか、相手に寄り添って考えながらコミュニケーションをとることです。



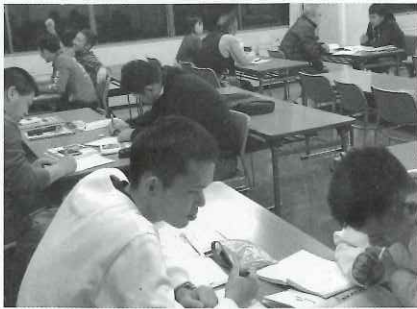
ちいきのふくしみいつけた★

「ちいきのふくしみいつけた」では、江南市内のふくしに関連する話題や活動を市民のみなさまに紹介します。



江南市国際交流協会「日本語教室」について紹介します！

【基本情報】



▲日本語教室の様子(老人福祉センター内)

近隣にお住いの外国人の皆さんを対象に、生活に必要な日本語の学習支援をしています。江南市国際交流協会のボランティアが運営・指導にあたり、週2回開催しています。

日本語教室のボランティアに必要なことって？

日本語教室に関わるボランティアは大学生から主婦、社会人まで様々です。特別な資格や外国語が話せなくてもボランティアとして活動できます。大切なのは、相手の状況や理解度に応じてやさしい日本語などを使って伝えることです。

ボランティアよりメッセージ



現在日本語を学びたい方が増えている一方で、支援するボランティアが足りていません。

日本語や外国語が好きな方、日本語を外国人に伝えるボランティアに興味のある方、熱意のある方、ぜひ私たちと一緒に活動しませんか。

お知らせ



日本語教室の参加者・ボランティア募集中

対象者

日本語を学びたい方
日本語を学びたい方を支援する方

活動日

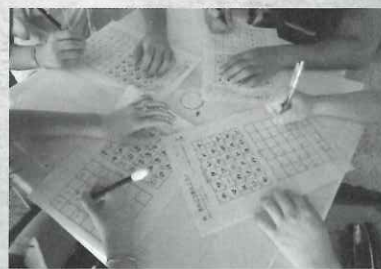
毎週月曜日：午後7時～9時
毎週日曜日：午後1時～3時

会場

月曜日：江南市老人福祉センター2階
日曜日：宮田地区学習等共用施設

問い合わせ先

江南市国際交流協会 ふくらの家 56-7390
江南市国際交流協会事務局(江南市教育委員会生涯学習課)
54-1111(内線486)



▲参加者同士で学び合うこともあります



▲ひらがなから漢字まで勉強中！

「自分たちのふくし活動を知ってほしい！」という方は、江南市社会福祉協議会にご連絡ください。



今回は江南市内で長年ボランティア活動に携わってこられた2人の先輩に、ボランティアについて対談していただいた様子をお伝えします。

—相手の状況や気持ちを想像し「当事者性」を持つこと

大塚さん：清水さんとは活動を共にしたことはありませんが、存じ上げています。清水さんが代表を務めておられる地域福祉研究会で、2010年に開催された「阪神タイガースファン型ボランティアのすすめ」というテーマに興味を持ち参加しましたが、内容が難しかったという印象があります(笑)

清水さん：ボランティアの意識を阪神タイガースファンを例に紹介した回ですね。

端的に説明すると、タイガースの昨年の成績は残念ながら最下位でしたが、かつては優勝争いに絡むほど強いときもあれば、巨人のV9時代には中々優勝できず万年2位のときもありました。成績低迷が続くと楽しくなくなり、応援することを辞めてしまう人もいますが、熱心なファンは苦しい時期が続いても逃げずに応援していました。何十年が振りによつと優勝したとき、当時の星野監督がインタビューで「あく、しんどかった」と答えています。ファンは野球をする当事者ではありませんが、その監督が発した言葉の背景が想像でき、理解できるという意味で当事者性があると思います。それは長い間、楽しい時も苦しい時もずっと応援することで培われてきたのだと思います。それをボランティアに置き換えて考えてみると、長い間活動を続けておられる方は楽しいことだけでなく、辛いこと苦しいことも乗り越えておられます。その過程の中で、相手の気持ちや状況を想像し、理解するというのが当事者性が備わっているのではないかと考えています。



ことを生懸命考え、理解しようという想像力があるからではないでしょうか。そしてもうひとつ大切なのは、想像だけで終わらせず、その想像が正しいかどうか検証し学習することだと思っています。

—ボランティアには「活動」と「学習」のどちらも大事

大塚さん：私にとっては勉強会が学習の場でしたね。でも、相談員全員が勉強会に参加していたわけではありません。学習の機会を求めていない人に対してそれを求めるのは難しいですし、その人の自由でいいと思っています。全員が同じものを目指す必要はありません。いろいろな考えのある人が集まっているからこそ発展することもあるのではないかと思います。

ただ活動が嫌になって辞めてしまう人が出てきてしまつことは、社会的にも損失だと思っています。学習の場があることで、結果的に辞めることになつても、後に振り返つてプラスにできる機会になるなら、その人の今後の選択に良い影響を与えるのではないのでしょうか。また学習と言つても勉強会を開くことだけでなく、



ことを実現できる方法の一つがボランティアだと捉えてみてはどうでしょうか。

もちろん待つている当事者がいるのに勝手に約束を破るなど、無責任を勘違いしてはいけません。

大塚さん：そうですね。ハートフレンズは保健所や社協と一緒に立ち上げていますが、私たちは私たちが必要だと思ったことをやるのが大事だと思っているので、最初に「理念や方向性が他機関と異なつたり、他機関からの指示を受けるだけの団体になるようであれば、関わられません」とお伝えしました。

清水さん：基本的な運営は自分達で行つて、困った時には社協などのコーディネーターに相談する。ボランティアと社協はそういう距離感が良いと思っています。これに当事者の参加が確保できれば、ある程度は自由にやってもいいんです。自分たちの団体なのですから。

—良い意味でボランティア中毒者を増やしたい

清水さん：社協をはじめとするボランティアコーディネーターに何を期待しますか。

大塚さん：社協にはボランティアを育てることに力を注いでほしいですね。「ボランティアっていいもんだ」と思える人が増えるといいな。その場限りの「やって良かった」ではなく、次の活動に繋げられるような、手こたえを感じられるようなものを返してもらえると、少しくらいしんどいことがあつても続けられると思います。良い意味でボランティア中毒者を増やしたいですね。

また私は精神障がいを持つ方と関わる機会が多いので、彼らに対する偏見が少しでも減つてほしいと考えています。例えば、他人から少し目を向けられただけで、「不審者でも見るように睨まれた」と不安に感じる当事者の方もおられます。目を向けた方に他意はなくても、当事者にとって大きな影響を及ぼす可能性があることなどを知ってもらい、健常者と障がいの溝を埋められる機会をもっと増やしていきたいです。そのために、出前講座のように様々な場所で障がいへの理解を深められるようなチームを作りたいですね。

清水さん：私はこれからボランティアと当事者双方の立場に立つて取り組んでほしいと思っています。例えば、毎年各小学校で実施されている福祉実践教室では、各

ボランティア

先輩に聞く!の巻

大塚 清子さん



長崎県生まれ。短大卒業後事務職に就くが、46歳の時一念発起し始めた電話相談ボランティアで精神障がい者と出会う。市内小学校でこころの相談員を担い、現在フリースペース「ハートフレンズ」の運営団体の一つである精神保健福祉ボランティアグループあい・愛の代表を務める。